

Ⓓ

国

語

(解答番号

1

～

33

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜7)に答えなさい。

ポケットモンスターに「ビクティニ」というキャラクターがいる。頭は大きなVの字に象られており、ご丁寧かたどに左手でピースサインをしている。モンスターはいずれも「タイプ」という属性をもっており、それに応じた技を覚えるが、ビクティニのタイプは「エスパー」と「ほのお」である。ゲーム内では「ビクティニが無限に生み出すエネルギーを分け与えてもらおうと全身にパワーがあふれだす」と説明されている。

いうまでもなく、ビクティニは原子力の表象である。そこには原子力という科学技術に対する私たちの想像力のイッタンが、いくらか屈折した形で、表現されている。

『ポケットモンスター』は世界的な人気を誇るゲームシリーズである。プレイヤーは「ポケモン」と呼ばれるモンスターを飼育し、戦わせることでゲームを進行する。なかには、簡単には捕獲できない「幻のポケモン」と呼ばれる特別な種類もいる。かくいうビクティニもまたそうした幻のポケモンの一匹だ。

ビクティニを捕獲するためには、ゲームの中の特別な場所に行かなければならない。それは「リバティガーデン島」と呼ばれる島の地下室である。ストーリー上では次のように説明される。かつて、無限のエネルギーを人々に与えるビクティニは、それを悪用しようとする輩やからに付け狙われていた。ビクティニがそうした悪党の手に渡れば大きなサイヤク(イ)が起きる。そうした事態を  
a したある大富豪は、二百年前に島の地下室にビクティニを幽閉した。時が経ち、ビクティニの存在を知った悪の組織が再びビクティニを奪取しようと動き出す。それを阻止するために、プレイヤーはこの悪の組織と戦い、ビクティニを自分のポケモンとして捕獲し、地下室から解放する。

技も強烈だ。たとえばビクティニは「かえんだん」という強力な炎タイプの技を使う。これは、自分以外のモンスターを無差別に攻撃するという特徴をもっている。「いのちがけ」という技も特徴的だ。この技を使うと、ビクティニ自身が戦闘不能に陥り、それと引き換えに相手に大きなダメージを与えられる。

ビクティニが原子力の表象であることは明らかである。たとえばビクティニが覚える技は、いずれもあまりにも威力が巨大すぎて、自分の仲間や自分自身さえも破壊させかねないものであるが、それは、使用されれば必然的に核戦争を招き起こし、それによって人類全体を破壊させる、という核兵器の特性を連想させる。また、ビクティニが二百年間にわたって b されている、という事態は、放射性廃棄物の地層処分を想起させもする。

ビクティニは核兵器であると同時に原子力発電所でもある。そこには原子力という科学技術に対する私たちの解釈が示されている。

しかし、ポケモンがなんだというのだろうか。そんなことは原子力をめぐる現実の問題に何の関係もないのではないか。科学技術の問題は、あくまでも科学技術によって解決されるのであって、そこでは想像力の働きなど役に立たないのではないか。

三・一一以降、そうした言説が日本社会を支配してきたように思える。市民は原子力に対する漠然とした不安を語るが、それに対してある種の行政担当者やある種の専門家は、そうした不安をあたかも妄想であるかのように一蹴し、合理的で科学的な知識を伝えることだけに囚われてきた。もちろんそうした知識は必要である。しかし、それだけで科学技術の問題を ウ フクできると考えるなら、そうした考え方は少なくとも三世紀遅れている。

近代イタリアの哲学者ジャンバティスタ・ヴィーコは、科学的な知性を「クリティカ」と呼び、それに対して常識に c する知性を「トピカ」と呼んだ。クリティカが計算に基づいて真実を導き出すとしたら、トピカはその答えを「真実らしく」表現する知性である。計算に基づいて導き出された答えは、それがたとえ厳密で正確であったとしても、私たちに ウ 思えるとは限らない。それに対してトピカは、人々が理解できるような言葉遣いに習熟し、一瞬で人々を納得させられる表現を ク シンする能力である。ただしそうした表現は、決して合理性に基づいては導き出せない。

ヴィーコは、デカルトによってあらゆる学問のモデルがクリティカだけに求められ、トピカが軽視されていることを批判した。科学的な合理性だけが重視されるとき、それを語る人々から言語的なセンスは失われていき、おおよそ「真実らしい」とは思えない言葉が科学的な知識として流通する。しかし、結果的に、それは専門家に対する人々の不信感を加速させることになってしまう。

むしろ、科学的な知識を重んじるためにこそ、それを表現するためのトピカが育まなければならない。そして、ヴィーコに拠れば、トピカを育むために必要なのは豊かな想像力に他ならない。

クリティカに対するトピカの必要性は、言い換えるなら、科学技術に対する想像力の必要性でもある。そして、それは現代社会において一層切迫した形で必要とされている。

今日の科学技術の影響力は加速的に巨大化している。ときとしてその巨大さは人間の想像力を凌いでしまう。たとえば放射性廃棄物は、それが自然界に受容可能になるまで、およそ十万年の期間がかかるといわれている。私たちがこの「十萬」という数字をクリティカに基づいて算出することができる。しかし、十万年後がどんな世界になっているか、私たちには想像することさえもできない。だからこそ、十万年間の保管期間が必要だといわれても、私たちにはそれをうまく飲み込むことができないのである。

二〇世紀の哲学者であるハンス・ユナスは、科学技術文明において、現在の世代は未来の世代に対して責任を負わなければならない、と主張した。しかし、その未来はあまりにも遠くまで及ぶため、この責任はあまりにも茫漠として、掴みどころのないもののように思えてしまう。それに対してユナスは「恐怖に基づく発見術」を提唱している。そこで彼は、恐怖すべき未来をありありと思ひ浮かべることで、その未来には至らないための方策を発見する、という思考法の必要性を訴えている。重要なのは、その発見は想像力によって担われなければならない、と語られていることだ。

ユナスに拠れば、未来世代への責任を担うとき、私たちはこれから訪れる未来を想像する努力をしなければならぬ。数万年後にこの場所がどうなっているのか、そこではどんな匂いがして、どんな風が吹いて、どんな音が聴こえるのか。それを想像することから責任は始まるのである。

ユナスはそうした「恐怖に基づく発見術」を実践する上で、サイエンス・フィクションの有用性を指摘している。そうした文学作品において発揮される作家の豊かな想像力は、ただの娯楽として消費されるだけではなく、テクノロジーが実装された社会がどのようなものになるのか、あるいは、その社会で生きる人々が何を思うのかを、より具体的に想起させることができる。それ

によって私たちが現在の科学技術をどのように扱わなければならないのか、どんな責任を負わなければならないかを、はつきりと感じさせるのだ。

ヨナスがその具体例として好んで取り上げるのは、オルダス・ハクスリーの『すばらしい新世界』である。その世界では、人間は官僚機構による徹底した支配のもとに囚われており、X。人間は子どもを産むことができなくなり、子どもの出生は装置に(注)ダイタイされ、そして生まれてきた子どもはすぐに選別され、社会的な格差を再生産する教育を受けさせられる。

もつとも、そうした技術の運用方法そのものは、あるいは小説を介さずとも予測できるかもしれない。しかしこの物語は、そうした社会で生きる人間にとって家族がどのようなものなのか、他者を愛するということが何を意味するのかを問い直している

であり、そしてそれは科学技術の本質に属す問題なのだ。

人間の生のそうした具体的な相貌は、物語を介した想像力をdされることで、初めて予見できるようになる、とヨナスは考えていたのである。

C そういうわけだから、ビクティニだつて決して馬鹿にできない。それは私たちにとつての原子力のある側面を表象している。ビクティニのデザインを決定しているのはクリティカではなくトピカである。だからこそ、科学的な合理性に基づく限り決して表現されえない原子力の本質を、ビクティニはe することができなのだ。

幽閉されていたビクティニに見つめられたとき、あなたならどんな態度を取るだろうか、取るべきだろうか。私たちは原子力という科学技術からそう問いかけられているのかもしれない。

(戸谷洋志「科学技術と想像力―ビクティニとトピカ」『世界思想2020年春号』所収)

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号

は 1 5。

(ア) イツタン

1

① 分詞構文のタンゲンを学ぶ。  
 ② 新しい技術のタンシヨをひらく。  
 ③ 久々に熊野路をタンシヨウする。  
 ④ タンキは損気だ。  
 ⑤ 肉体をタンレンする。

(ウ) コクフク

3

① エネルギーをゾウフクさせる。  
 ② フクインをもたらす。  
 ③ 彼女の行動にはケイフクした。  
 ④ 彼のフクアンを聞く。  
 ⑤ フクセンをはる。

(イ) サイヤク

2

① キサイと呼ばれた男だ。  
 ② ソクサイでいてください。  
 ③ 彼はサイタイシヤだ。  
 ④ わが軍はギョクサイした。  
 ⑤ レイサイ企業で働く。

(エ) クシ

4

① クカク整理を行う。  
 ② お金をクメンする。  
 ③ 思わずゼックする。  
 ④ クニクの策で乗り切る。  
 ⑤ 彼は近代絵画のセンクシヤだ。

(オ) ダイタイ

5

① ダイダンエンを迎える。  
 ② 芝居のダイホンを書く。  
 ③ 高いダイシヨウを払う。  
 ④ キュウダイ点をとる。  
 ⑤ ダイイを把握する。

問2 空欄

a

く

e

ただし同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a | 6、b | 7、c | 8、d | 9、e | 10。

① 喚起

② 幽閉

③ 体現

④ 立脚

⑤ 危惧

問3

空欄

X

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 11。

- ① その支配は高度な科学技術によって支えられている
- ② その機構は現在からは予見できないほど管理的である
- ③ その官僚機構は私利私欲にまみれた政策を実行する
- ④ その世界は著者の想像力の非人間性を感じさせる
- ⑤ その官僚が有する権力は現代と同様強大なものである

問4 傍線部A「ビクティニは原子力の表象である」とあるが、そのように言えるのはどうしてか。その説明として最も適当なもの

のを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① ビクティニはその技を使わないことを前提に作られているが、その点が、使えば人類を破滅させるがゆえに使われない核兵器の存在を連想させるから。
- ② ビクティニは大富豪によって長い間保護されているが、そうした点が、富める国が所有していることの多い核兵器や原子力発電所をイメージさせるから。
- ③ ビクティニは科学技術の粋<sup>すい</sup>を集めて作られたものだが、その点が、屈折した形ではあるが、科学技術の極限とも言うべき原子力技術を想起させるから。
- ④ ビクティニは善でも悪でもないが、悪に利用されたときには、無限のエネルギーを發揮する可能性を持っており、その点が、核兵器と類似しているから。
- ⑤ ビクティニは自分をも含めたすべてを破壊する巨大な力を持ち長い間地下室に入れられているが、そうした点が、原子力に関わる事物を想像させるから。



問5 傍線部B「それは現代社会において一層切迫した形で必要とされている」とあるが、それはどうしてか。その説明として最

も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

13。

- ① 科学が生み出した事物が与える影響を科学は数値だけで示すが、科学に対する不信感が拡大している現代では、そうした数値だけでは人々はそれを信頼できず、その数値の合理性を説明する言語が求められるから。
- ② 現代社会に対する科学技術の影響力は日々大きくなっているが、その現実味は科学的な数値だけでは感じ取ることができず、私たちを納得させることのできる想像力を前提とした言語的知性が不可欠だから。
- ③ 現代の科学の影響力の加速度的な拡大は、私たちの思考力を劣化させ、科学的であればそれは真実だと思わされているが、そうした異常な事態を打破するには、本当の真実とは何かを考える想像力的思考が重要だから。
- ④ 今日の科学技術の影響力は巨大なものになっているが、そうした影響がもたらす結果は一般の人間には知らされず、一部の科学者だけが認知しており、そうした閉鎖性を打破するには常識的な言葉が必要だから。
- ⑤ 近代以降の科学的知性に依存し想像力を衰えさせてきたために、未来を想像することもできず、科学的な情報を鵜呑みにするだけになっている現代人には、未来を思い描く想像力の回復こそが急務であるから。

問6 傍線部C「そういうわけだから、ビクティニだって決して馬鹿にできない」とあるが、これはどういうことか。その説明と

して最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

14。

- ① 人間の生の具体的な姿は、物語を介した想像力によって予見できるのだから、ビクティニのあり方を科学的に分析することによって、人間の未来も予見できる、ということ。
- ② 物語や小説によって科学技術の多様な側面を描くことが可能であるように、ビクティニも、ただ単に原子力だけではなく、科学技術全体を表象しているのだ、ということ。
- ③ 物語によっても科学技術を批判しうるのだから、ビクティニもただのゲームのキャラクターではなく、科学技術を批判する想像力を養う意図に基づいたものだ、ということ。
- ④ 物語は家族や愛をテーマとするが、ビクティニも同様のテーマに関わっており、その存在は、現代人が未来世代に思いを馳せることができるかを問うているのだ、ということ。
- ⑤ 人間の生の具体的な姿は、物語を媒介することによって想像することができ、ビクティニをめぐる物語は、科学技術と私たちとの関係を想像する契機となりうる、ということ。

問7

本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

15。

- ① ハクスリーの『すばらしい新世界』は、未来における人間同士の関わり合いや生のあり方を具体的に示唆するものである。
- ② 一般の人々に真実らしいと思ってもらえないならば、たとえ計算上は真実であるとしても、それは科学的には真実ではない。
- ③ ヨナスが提唱した「恐怖に基づく発見術」という方法により、想像力で近未来を描く優れた物語が生み出されることになった。
- ④ 私たちが未来世代への責任を考えるならば、ビクティニの武器同様、原子力という科学技術は使わないことを選択すべきだ。
- ⑤ デカルトは科学的知性を絶対視したが、科学の持つ様々な負の側面を経験した日本では、そうした考えは相対化されている。

## 第2問

次の文章は二〇一六年に発生した熊本地震の後に書かれたものである。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えなさい。

ついこのあいだタクシーに乗ったら、六十代とおぼしき運転手が「人間はマグマの上で暮らしてるんじゃないから、地震は当たり前じゃ。わしや部屋にや何も置いとらんから、倒るるものもありやせんだった。大体みんな、モノの持ち過ぎですパイ。要らんもんまで買いこむもんだから大事になる。人間が自然よりえらいとじゃなか。自然の方がずっとえらかと」と **a** をあげた。おっしゃる通りである。本を買いこみすぎた私は一言もなかった。

だがそう覚悟したとしても、問題はひとつも解けてはいない。人間はずっと災害・疫病によって **b** の死を遂げて来たし、これからもそうであろう。それは人間の生の条件なのだから、逃れようがない。もちろん、そういう条件にいかに対処してゆくか、地震なら地震に今後どのような対策をとってゆくか、工夫は凝らしようがあるし、凝らさねばならない。それは当然としても、地球上で生きることから来る不運・非業は避けられず、しかもその避けられぬということそのものを、是認することができない。これはどうしたらよいのだろうか。

悲しみ嘆くことしかできぬとも言える。命が助かったものはいい。助からなかった生命に対して、われわれはどのように向きあえばよいのか。わが身の幸運を感謝しかつ恥じて、悲しみ嘆くしかない。はかなさの極みであつても、そのはかなさを深く感受するしかない。むかしの人は無常というものをわれわれより日頃深く感じとっていたはずである。それゆえに生きようと努めたはずである。われわれもそうするしかないというのは、確かにひとつの真実に触れている。

だが、もう少し考えてみよう。災害による理不尽な死に納得できないというのは、 **A** 人間が生きる世界には虚無の穴があいているということだ。その穴は災害による死以外にも、それがこの世界の基本的事実であることを示すかのように、各所にくろぐろとした姿を見せている。たとえば食物連鎖という基本的事実を考えても、生物は種の存続のために、絶えず一定の仲間を犠牲に供さねばならない。この局面では生と死とはおなじものの異なる相貌にすぎない。しかし、その事実に残酷を見るのは人間で

ある。鹿や兎はその事実を残酷と感じもせずただ生きてゐる。人間だけがそこに虚無を見る。虚無は人間が創造したものだ。人間が存在するゆえに虚無が存在する。虚無を見る心がなければ人間も存在しない。だとすれば、自分が創り出しつつも絶対に納得しえぬ虚無と、永遠に対決するのが人間ではないか。人間には消し去ることのできぬ虚無の前で、われわれは誇りやかである。どのような理不尽を突きつけられても、人間への嘲笑を許すまい。死をもってしても虚無をもってしても、ひとつの人格が敗北した験しるしとして認めまい。魂は永遠だなどと言いたいのではない。それは敗北を認めないというだけのことだ。

自然がえらいのか、人間がえらいのか。人間は自然の運動が生んだのだから、えらいかどうかは別として、自然の方が大きいことはわかり切っている。自然の無心の働きを、人間は自分の都合でどうこう言っているだけでそういう人間の言い分自体が自然には聞えていない。そういう自然を畏敬するのは、よほど思い上った人間中心主義者、自然征服主義者でない限り当然のことだろう。だが自然は、その無心な働きを時として納得しえない人間という存在を生み出してしまったのだ。B 人間がそのようなものとして生み出されたことの意義は決して軽くはないのである。われわれは自然を畏敬するが、それに屈従はしない。

もうひとつ考えたことに話を移そう。人間は確かに身ひとつがよい。持ちものは最小限にするがよろしい。かの運転手氏が言うまでもなく、古来聖賢はそう説いて来たし、ガンジーはそれを実践しようとした。だが、文明とはたんなる精神のみならず装備なのである。そして文明をもたらす人間の欲望は、ある限界を設けるべきではあるうが、決して否定してはならぬ性質のものだ。それを否定するならば、都市も家屋も書物も美しい工芸も消失する。文明は持ち重りのするものだ。しかし、それに耐えて保持するに値するものだ。しかし逆にいえば、重みに耐えて保持するに値する内実を文明は備えていなければならぬ。今日の文明の装備はその条件をみたしているだろうか。これは徹底して問われるべき問いである。巨大化し、複雑化し、人間に対してブラックボックス化し、虚飾化する文明の趨勢すうせきに対して、単なるシンプル・ライフ、ミニマリズムを唱えるのではなく、人間をもっと主体的かつ共感的で自由で創造的でありうるように導く文明のありかたを考え、少しずつでも現実化してゆくしか、人間が生きのびる途はあるまい。

こういう抽象論を己れに適應すればどういふ教訓が得られるか。書物が私の手に負えぬものになり、凶器にさえなったのは、

むろん限度を知らぬ私の欲望のせいである。何もかも知りたいというのは傲慢である。だが私はその誇大妄想のおかげで、やつとほんの少しの知識を得た。十望んだからこそ一を知りえた。最初から一しか望まなければどうなっていたことか。だが知識とは結局は空しいものなのかも知れない。脳のキャパシティは限られているらしく、ひとつ詰めこむとひとつ出てゆく。要するに忘れるのだ。だから読んだ本であれとって置きたいのだが、老いてはその本がどこに置いてあるかも知れる。自分の把持能力以上の本を持っていてもそれは死物だ。この際書物を大幅に処分する気がやつと起きた。

しかし、いざ処分しようとすると未練が起こる。物欲というものは始末が悪いと思つたが、どうもそれとは違つらしい。集めた本は **X** なのだ。まだ読めないでいるものも含めてそうなのだ。ということは、私の第二の自己のようなものだろうか。蔵書は未読のものも含め私の自画像なのか。だとすればこれは物欲じゃなく自己へのとらわれということになる。物欲に劣らずくだらない。

結局買いこんだ奴ともう一度本気で格闘するしかないらしい。八十五歳になつてそんなことが出来るものだろうか。私は本を読むことによつてしかももの考えられぬ人間、つまり独創性ゼロの人間だから、本がなくなれば情けないことにも思考もできぬ人間になつてしまう。 **C** 自己愛を乗り越えるには、客観的に存在するものと格闘し、それによつて規制されるしかない。集めた書を自分の似姿と思うのではなく、自分の外にあり自分を超えた客体と見よう。少なくとも日本の開国史とロシア近代史に関する文献とは、もう一度 **c** を払つて取り組んでみよう。こうなれば老いとの競争になる。でも途中で斃たおれても悔いはない。そう思いたい。

正直言うと、地震以来体力が一段また落ちた気がする。頼りになるのはただ習慣だ。読みかつ書くという自動的な習慣だ。それだけは死ぬまで保てそうである。そうしたからと言つて世の中のためになるじゃなし、とは百も承知。ただ私の尊敬する友人のコーヒー店主は、スタンドの中でコーヒーをいれつつ死ぬと言つてゐる。私も机に向つて死のう。

(渡辺京二「虚無と向きあう」『原発とジャングル』所収。文章一部変更)

(注) ミニマリズム——ここでは、必要最小限の生活を営もうとする態度、という意。

問1 空欄

a

↳

c

に入れるのに最も適当なものを、次の①〜⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。  
ただし同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は a | 16、 b | 17、 c | 18。

① 惰気

② 逆縁

③ 気焰きえん

④ 非業

⑤ 愁眉しゅうび

問2

空欄

X

に入れるのに最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

19

① 己の観念的欲望

② 生の具体的残量

③ 個の主體的創造

④ 私の精神的戦跡

⑤ 生の客観的形姿

問3 傍線部A「人間が生きる世界には虚無の穴があいているということだ」とあるが、これはどういうことか。その説明として

最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- ① 人間がこの世界を生きていくということは、常に死という無常を感じさせるものと隣り合わせなのだ、ということ。
- ② 人間が虚無を創造したかのように見えるが、実は他でもない人間自体が虚無そのものなのである、ということ。
- ③ 人間は人間であるがゆえに、自らが生きることが誰かを犠牲にしていることだと感じざるを得ない、ということ。
- ④ 人間は自らは認めないとしても、世界に打ち勝つことができなかつたという空しさを抱いて生きるのだ、ということ。
- ⑤ 人間の生には、人間が受け入れることも否定することもできず、空しいと見える事柄がつきまとう、ということ。



問4

傍線部B「人間がそのようなものとして生み出されたことの意義は決して軽くはないのである」とあるが、筆者がこのように言うのはどうしてか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は

21。

- ① われわれ人間が自然から切り離された存在であると認識することによって、人間は自然に屈従しないという決断を行うことが可能になったから。
- ② われわれの声を自然は聞いていないという自然への敵意が、自然に敗北してはいけないという強い意志を人間に抱かせることになったのだから。
- ③ われわれが自然のもたらす現象に異議を唱える存在であるからこそ、虚無と対決し、それを乗り越えようとする営みを行うことができるから。
- ④ われわれが自然の働きを全肯定し得ない者として生み出されたからこそ、人間が自然を馴致し人間的な世界にしようとする営みが存在するから。
- ⑤ われわれがあくまで自然に屈服しない誇り高き存在であるからこそ、高貴な精神の象徴である文明というものを作り出すことができたのだから。

問5 傍線部C「自己愛を乗り越えるには、客観的に存在するものと格闘し、それによって規制されるしかない」とは、ここでは

どういう意味か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は 22。

- ① 自分の文章を多くの人に読んでもらいたいという思いを抑えるには、他人の著作を冷静に読んで評価し、自分の文章力が未熟なものであることを心から自覚していくしかない、ということ。
- ② 獨創性を持った自分でありたいという思いを相対化していくためには、多くの書物を読破し、それらの作品が、実は先人の業績の上に成り立っていることを認識するしかない、ということ。
- ③ すべてを知る自分でありたいと思い、本によって自らを形成しようとした執着を超克するには、書物を徹底的に読み込み、それが自分とは切り離された対象だと自覚するしかない、ということ。
- ④ 読んだ本の量こそが自分の人生の豊かさを物語っているのだという幻想を断ち切るためには、再度本と対峙し、本は自分の外部にある客体でしかないことを再認識するしかない、ということ。
- ⑤ 自分は書物からかけがえのない知識を得たのだという思いを打ち消すためには、かつて読んだ本を再読し、そこに書かれた知識が実は身につけていないことを認めるしかない、ということ。

問6 筆者の考えに合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は

23

① 所有物は最小限にという古来からの考えがあるものの、人間を自由へと導いている現代の物質文明は否定すべきではない。

② 医療などの発達していなかった昔の人間は無常を深く感じたが、それゆえ現代人より生きようという意力を持っていた。

③ 抽象的な議論というものは、自分の具体的な経験や体験に結びつけて考え論じるようにしなければ、あまり意味がない。

④ 本とともに生きるという人生を送ってきたが、人生の最期を迎えるときまで、そうした生活を保持し続けたいと思う。

⑤ 人間が自然の営為に納得し得ないのは、文明がもたらす人間の欲望や物質的装備の肥大化と関わりがあると言える。

第3問 次の問い(問1～3)に答えなさい。

問1 次のA～Cの語の意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 24 ～ 26。

A プロローグ 24

- ① 伝承
- ② 独白
- ③ 序章
- ④ 逸話
- ⑤ 仮想

B アジェンダ 25

- ① 社会規範
- ② 基本理念
- ③ 共通感覚
- ④ 検討課題
- ⑤ 共同事業

C 隠喩 26

- ① ウィット
- ② ニュアンス
- ③ メタファー
- ④ アイロニー
- ⑤ デイテール

問2 次のA～Cの空欄に入れるのに最も適当なものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は

～

。

A

をけずる

B

を付ける

C

を放つ

① 諧諷かいぎやく

② 尾鰭おひれ

③ 鎚しのぎ

④ 手塩

⑤ 異彩

問3 次のA～Dの人物に関係する事柄を、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は

～

。

A

堀口大学

B

斎藤茂吉

C

川端康成

D

夏目漱石

① アララギ

② 則天去私

③ 訳詩集

④ 新思潮派

⑤ 新感覚派